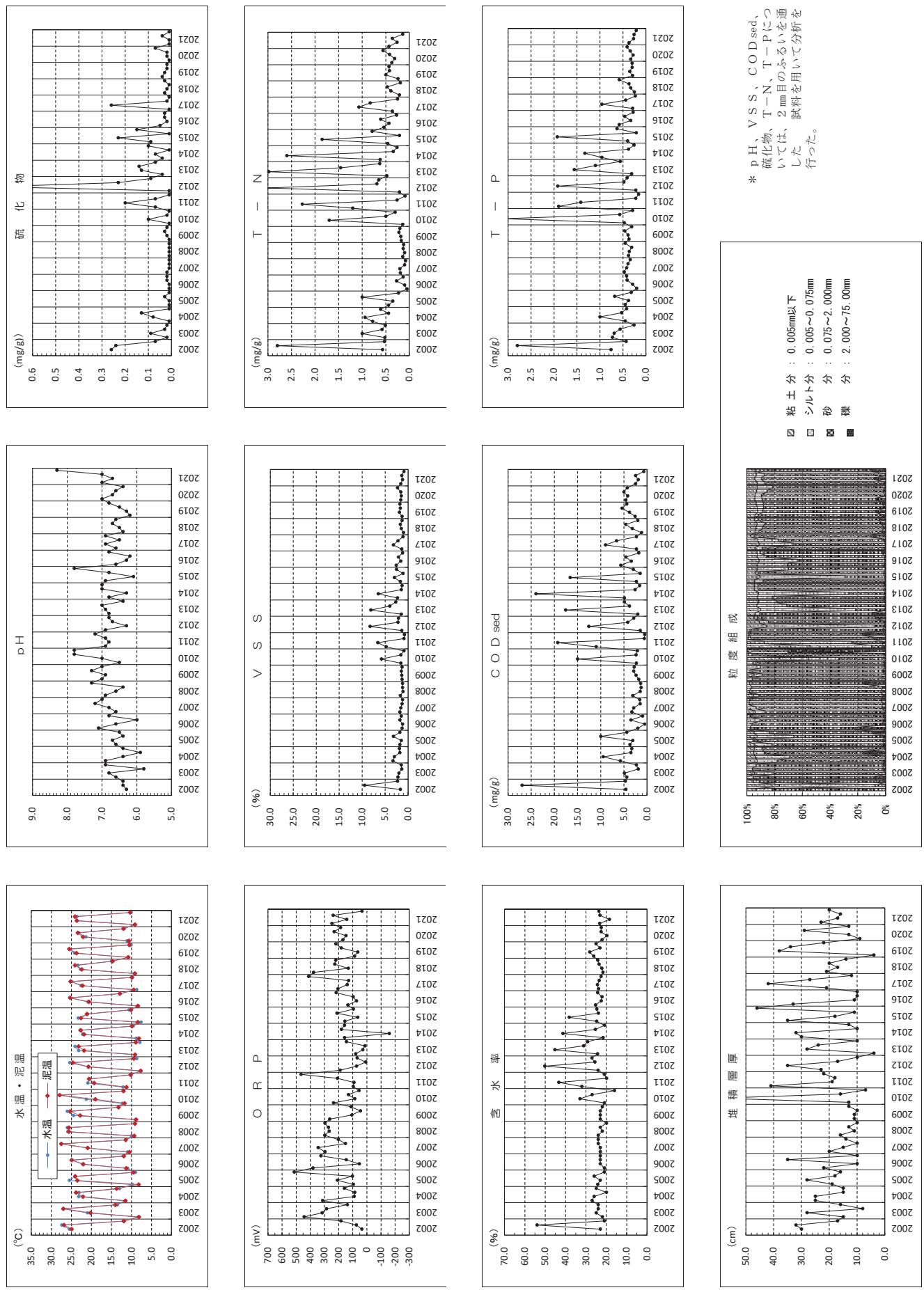
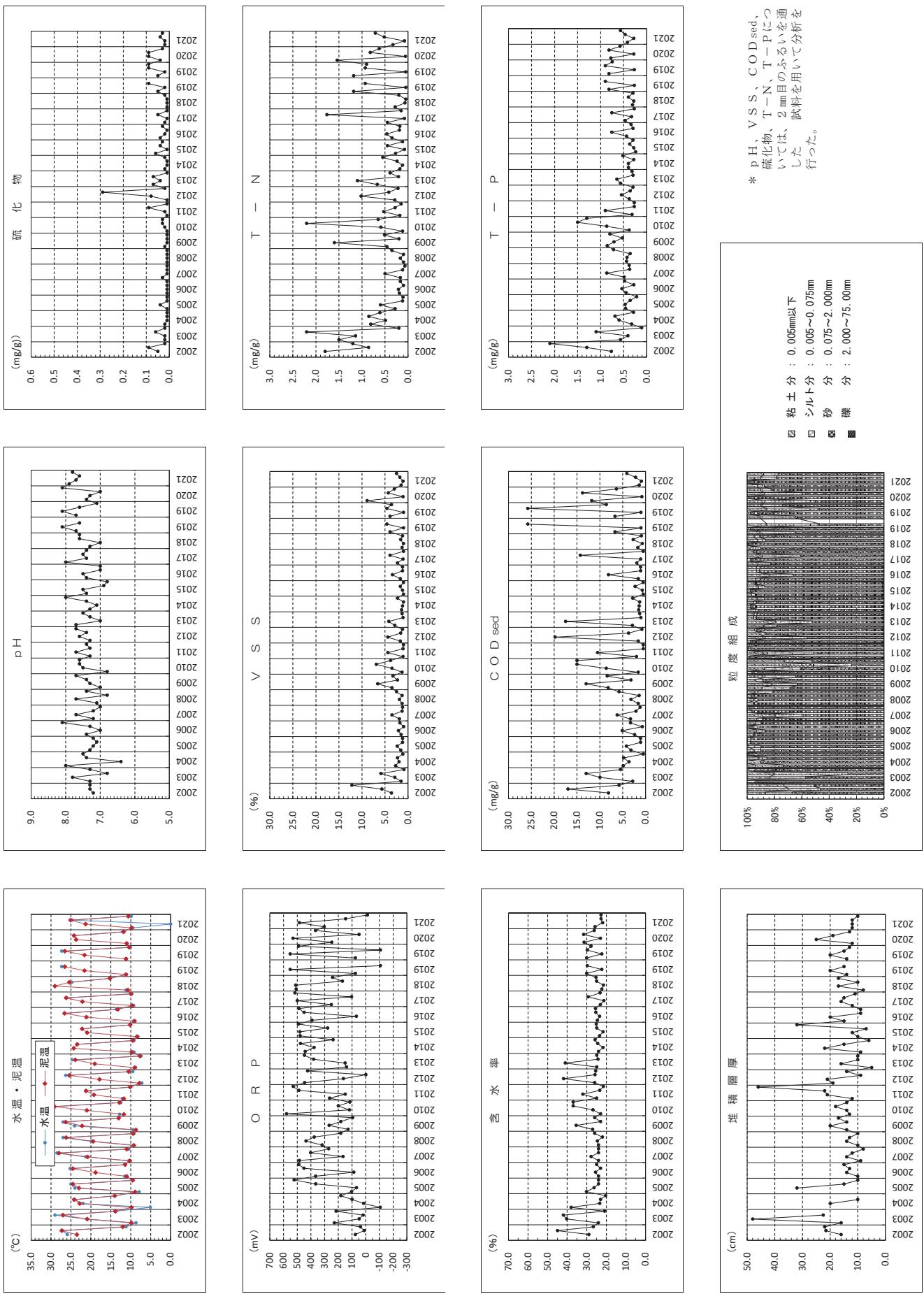
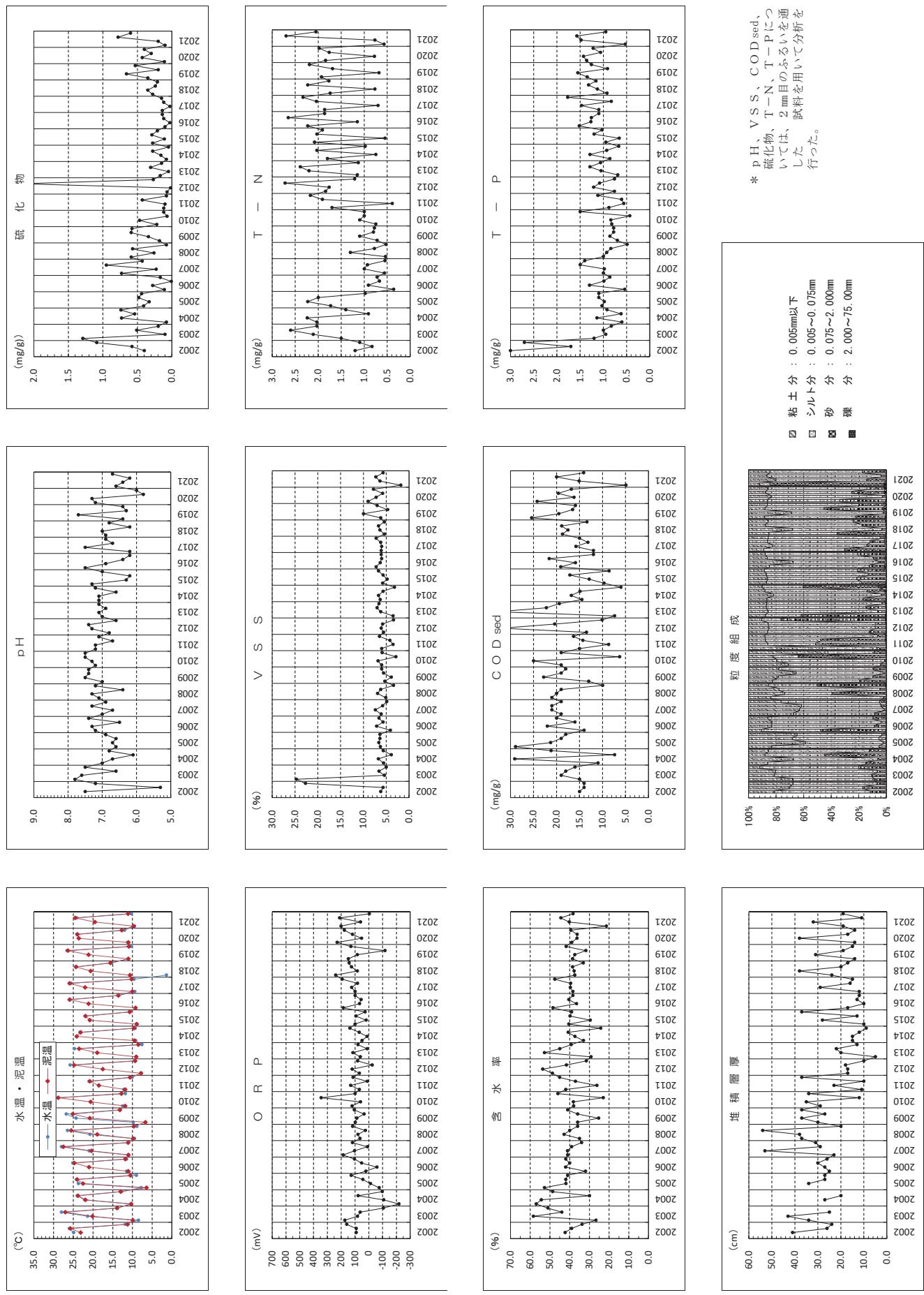


③ 市場橋



④ 旧吉野川河口堰上流





* pH、VSS、COD_{sed}、硫化物、T - N、T - Pについては、2mm目のふるいを通して試料を用いて分析を行った。

(6) 動植物
1) 魚類相

・調査時の流況

吉野川の阿波中央橋及び第十新田地点における平成4年(1992)～令和3年(2021)の流量変化を下図に示した。

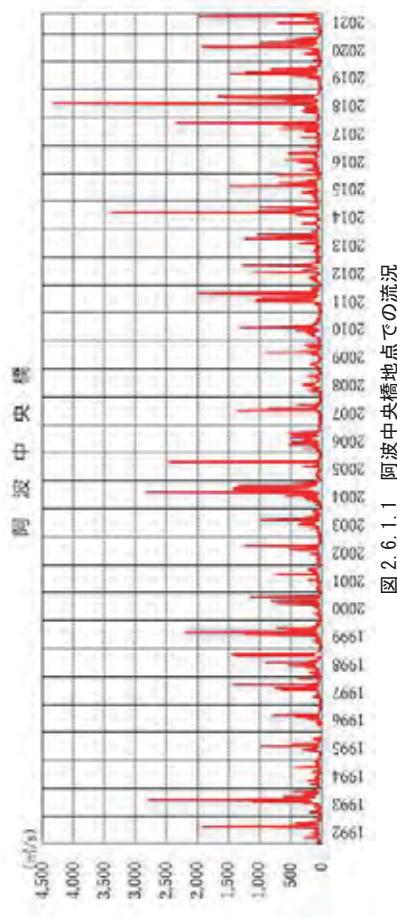


図 2.6.1.1 阿波中央橋地点での流況

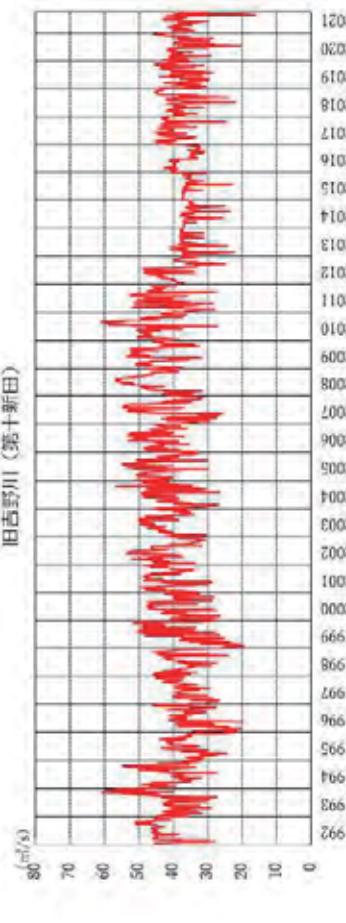


図 2.6.1.2 第十新田地点での流況

出典) 国土交通省水文水質データベースより (<http://www1.river.go.jp>)

・調査日及び調査地点(令和3年度)

調査地点	春季	夏季	秋季	冬季
①宇島橋	6月 15 日～16日	7月 27 日～28日	10月 26 日～27日	
②高瀬橋	6月 16 日～17日	7月 28 日～29日	10月 27 日～28日	
③第十堰下流	6月 24 日～25日	8月 26 日～27日	10月 21 日～22日	
④大寺橋	6月 23 日～24日	8月 25 日～26日	10月 20 日～21日	
⑤長岸橋	6月 22 日～23日	8月 24 日～25日	10月 19 日～20日	
⑥大津橋	6月 22 日～23日	8月 24 日～25日	10月 19 日～20日	
⑦百石須	6月 22 日～23日	8月 24 日～25日	10月 19 日～20日	

地點別經年比較

調査地点の特徴と変化状況

四

本地点における魚類相は、河川の中流～下流域に生息するコイ科の純淡水魚を中心に、回遊魚も多く確認されている。オイカワ等、平成 16 年度調査以降毎年確認されている種は変わつておらず、魚類相に大きな変化はみられないが、徳島県レッドリストに該当する魚が生息している。しかしながら、台風や大雨によるなど環境レッドリスト・

筆での護岸となつている。

平成16年度から行っている調査を通して、本調査地点では合計34種が確認している(本年度調査で追加種は無い)。そのうちコイ科が13種で全体の38%、次いでハゼ科が10種で全体の29%を占めている。確認種数をみると、本地点では毎年13~25種確認されている。本年度調査(秋季調査まで)で、18種確認されている。

出現頻度の高い魚種としては、オイカワリ、カラムツ、ウグイ、ギギ、カラヨシノボリ、オオヨシノボリが挙げられる(破綻解除で示した)。オイカワリ、カラムツ、ウグイ、カラヨシノボリは平瀬へ開港、ギギは学島橋付近の砦石の隙間、オオヨシノボリは学島橋下流の流れの速い瀬で確認される傾向にあり、本年度は秋季調査まで全種確認している。

■ カムルチーの3種で

表2 611 学年橋における種類認証

認種の生活型と季節傾向

【種類の生活型と季節傾向】確認種の生活型をみると、純淡水魚が24種で最も多く全体の71%を占め、回遊魚は_____、
ハゼ科魚類の_____及びハゼ科魚類の_____、スミキギリ、_____、シマヨシノボリ、オオヨシ
ヒコ、_____及びヒコ、_____及びヒコ、_____、スマチチブの10種で全体の29%であった。
冬季に確認種数が減少する傾向が見られる。なお、冬季に確認種数が少
ない原因として、冬季は水温の低下による遊泳魚の活動が抑制され
るため、投網や刺網による漁獲量が少なく、タモ網による採捕個体が少
ないことが挙げられる。但し、出現頻度の高い割合を占めている。

卷之六

認証されている。

の 14 種は環境省及び徳島県レッドデータブックなどに指定されている重要種である。これらの重要なうち、
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四

注) 1. 表中の●は確認種であることを示す。

2. 生活型 淡：純淡水魚、回：回遊魚、汽・海：汽水・海水魚、一：科または属内で統一した生活型にあてはまらないもの

3. [] は出現頻度の高い種を示す

4. 重要種の選定

①：「環境省レッドリスト2020」（環境省 2020年3月）

EX：絕滅、EW：野生絕滅、CR：絕滅危惧 IA 類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

②: 「徳島県版レッドデータリスト」(徳島県 2014年)

EX：絕滅、EW：野生絕滅、CR+EN：絕滅危惧 I 類、

EN：絕滅危惧 IB 類、VU：絕滅危惧 II 類、NT：準保

③：「外来種ハンドブック」（日本生態学会、2002年）

外：外来種(国外移動)

